

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100574		
法人名	有限会社 エクセルサポート		
事業所名	グループホーム さつき苑		
所在地	〒840-0034 佐賀県佐賀市西与賀町大字厘外841-9 (電 話) 0952-26-3293		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月19日	評価確定日	平成 21年5月1日

【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.6 人	

(2)建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,900 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(平成21年3月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東与賀大塚医院(内科)、 寺谷歯科、 佐賀記念病院(総合病院)
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀市内の静かな住宅街に位置する民家改修型のグループホームである。リビングや廊下から明るい光が差し込み、温かさを感じる空間になっている。リビングの目の前に手入れの行き届いた和風庭園があり、季節の移ろいを楽しむことができる。入居者はゆったりとして和やかな雰囲気の中で過ごされている。ホームでは日頃から入居者が地域の中で心地よく過ごせるよう環境づくりに力を注がれており、入居者は地域行事へ参加し、入居者の友人、子どもたちなど地域のさまざまな人たちの立ち寄りも多く、地域に溶け込んだホームになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は全職員に伝えられ、話し合いにより改善計画を作成し、見やすい所に掲示され、全職員で取り組まれている。「市町村との連携」及び「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、改善に向けて現在も取り組みが進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義は全職員で理解を深め、各職員が全項目の自己評価を行い、話し合いの上で管理者が集約されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームから入居者の状況やサービス提供の状況、評価への取り組み状況等について報告を行い、外部のそれぞれの立場から意見を出してもらい、それらの意見をサービスの向上に活かしている。自治会からは地域行事等の情報提供があり、緊急時の協力体制についても話し合いが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の暮らしぶりや健康状態等については、毎月担当職員が手書きの報告書を郵送している。家族の来訪時は職員と話し合う時間を持ち、意見や要望等が表出し易い雰囲気づくりに努めている。また、ホーム内に意見箱を設置したり、利用相談室も設けられている。ホーム以外の外部者にも苦情等が表せる機会や場があることの説明もなされている。得られた意見等はサービスの向上に活かせるよう取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。自治会から地域行事の案内があり、敬老会(老人会)や夏祭りなどに入居者と共に積極的に参加している。清掃活動には職員が参加している。近隣の人々の来訪も頻繁にあっており、地域との交流が密に行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1. 全ては入居者の為に」、「2. 全てに知恵と工夫を」という独自の理念が掲げられている。入居者本位に、入居者が地域の中で心地よく安心して過ごせるための環境づくりを目指して、日々職員はケアに知恵と工夫を重ねていくという意味が込められており、全職員に徹底されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所の壁面に理念が書かれた額が掲げられており、管理者と職員は毎朝・夕の申し送り時に唱和し、理念の実践に取り組まれている。また、毎月のスタッフ会議でも理念に触れ、確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。自治会から地域行事の案内があり、敬老会（老人会）や夏祭りなど参加できる地域行事には入居者とともに積極的に参加している。清掃活動には職員が参加している。近隣の入居者の友人や子どもたちの来訪も頻繁にあっており、地域との交流が密に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員で理解を深め、自己評価は各職員が全項目について評価を行い、話し合いの上で管理者が集約している。また、外部評価の結果を踏まえた改善計画を作成し、見やすい所に掲示されており、全職員で取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、各分野からの参加を得て開催されている。ホームから入居者やサービス提供、評価の取り組み状況等の報告をし、自治会からは地域情報の提供がある。そこでの意見や情報をサービスの向上に活かしている。また、緊急時の協力体制についても確認が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは行き来をして共に課題解決を図っていく必要性を認識されているが、まだ実施に至っていない。	○	市担当者にホームの実情やサービス提供の状況や取り組み等を折りに触れ伝えるなど、市担当者との行き来を密にしながら情報の共有に努め、サービスの質の向上を目指す協働関係を築いていかれるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各担当者が入居者の暮らしぶりや健康状態等について手書きの報告書を作成し、行事参加の写真を添えて郵送している。また、家族来苑の際には各職員が個人ごとに近況報告をし、家族からの意見、希望等を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、不満、苦情を気軽に伝えられるようホーム内に意見箱を設置し、利用相談室も設けられている。また、重要事項説明書に管轄の介護保険者や県国保団体連合会等、外部機関へも表せる旨の説明がされている。出された意見等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、管理者や職員の異動や離職を最小限に抑えるよう努められている。離職等がやむを得ない場合には、馴染みの関係の職員が対応するなどして、入居者へのダメージを防ぐように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員の研修は、運営者、管理者により実施されている。また、月に1回勉強会が開催され、必要な外部研修会には行かれているが、事業所としての研修の計画はなく、外部研修受講者による伝達等もあり行われていない。	○	各職員が自らの立場・経験・地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力をつけていけるよう事業所としての研修計画を立て、その計画に基づいて実施されるよう望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、地域の同業者とのネットワークづくりが進められており、運営者レベルでの話し合いがたびたび行われている。管理者、職員による相互訪問等はすでに実施されており、サービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心し、納得してサービスを利用できるよう入居前に本人や家族にホーム内を見学してもらっている。また、職員が自宅を訪問したり、希望に応じて体験入居をしてもらうなど、徐々にホームの雰囲気に馴染んでもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりのライフスタイルや得意分野をよく把握し、常に人生の先輩として尊重した態度で接している。喜怒哀楽を共にしながら学び、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向が表出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、日々の関わりの中で言葉や表情などからその真意を汲み取ったり、確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について、本人及び家族から要望等を聞き、会議を開催して職員全員で意見を出し合い、それらを反映させた個別的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月ごとに行われている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族及び職員で話し合い、実情に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望により。通院介助、外出支援、入居前の体験入居などが行われている。訪問理美容も導入されている。また、行事以外に入居者の楽しみごととして、お好み焼きパーティを行うなど独自の支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を大切に、かかりつけ医で継続して受診できるよう支援している。通院には必ず職員が同行し、かかりつけ医と事業所の関係を築き、情報の共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応のあり方や終末期における医療処置の対応については指針案の検討が行われている。今後入居者や家族等関係者との話し合いが予定されている。	○	重度化した場合の対応のあり方や、終末期における医療処置の対応についての指針を作成し、関係者全体の方針の共有を図っていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の勉強会で、入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを全職員に徹底させている。また、全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の入居者の気持ちを尊重して、それぞれのペースで過ごせるよう個別性のある支援が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、すしの酔合わせ、おしぼり洗い、お盆・お椀拭きなど入居者の個々の力を活かしながら入居者と職員が共に準備や食事、後片付けをして食事が楽しいものになるよう支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望に応じて、毎日でも入浴できるよう支援が行われている。入浴の時間帯や長さは、その日の希望や体調を確認しながら、入浴を楽しめるよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はそれぞれに掃き掃除、拭き掃除、調理の下ごしらえ、お盆・お椀拭き、おしぼり洗い等を自らの役割としてこなされている。また、新聞を読みたい人には職員が読むなど、生活歴や能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日には入居者の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活力につながるよう戸外の散歩や近隣での買い物外出などの支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、気配りや目配りを徹底することで、日中は鍵をかけないで自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回、職員による消火器の使い方や避難経路の確認、訓練を実施している。また、緊急時における地域の協力体制については、運営推進会議で確認がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録し、全職員が情報を共有している。キザミやトロミ食など、入居者の状態に応じた支援が行われている。年に数回、地域の管理栄養士に献立や摂取カロリー等の助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の窓から日の光が差し込み、暖かさを感じる空間となっている。また、リビングから和風庭園の樹木や花々を楽しむことができ、季節を感じられる。大小のソファが配置され、空調にも細心の注意が払われており、ゆっくりと居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れた家具や、家族の写真、仏壇など馴染みの品が持ち込まれ、入居者が思い思いに居心地よく過ごせるようにレイアウトされており、それぞれに個性的な居室になっている。		